

齋藤綠雨 さいとう りゅう 小説家、文藝評論家、隨筆家。慶應二年十一月伊勢國注れ、明治二十七年四月十二日没（二公七十一廿五）。本名賢 あきのぶ。筆名を、さくまのり、サイトウ、サイトウサン、さし出、それがし、みどり、むぐり、むづかしや、わる口、一浪士、不知文字全可笑、作者不詳、傍聽者、辯論家、六甲南無右衛門、南無右衛門、可笑、可笑亭真猿、壯士、小學生徒、小説好、小説通、所謂新進批評家、扶別家、拙者、文章家、村學究、某、柳八緑のかむろ、正大夫、正・正、正直正大夫、江東みどり、江東可笑子、江東散士、潔癖家、無聊生、物我生、狂訓亭主人、登仙坊、皮肉、皮肉生、真猿、真面目、穿鑿家、紅落生、綠野雨成、綠雨生、綠雨醒客、綿密家、老人、自稱俳人、若い者、蝶蜂子、衛生掛、賢、郎、都之助、面白がる人、頭取、創館家、齋藤、齋藤止大夫、カーン、●○生、▲▲▼▼、▼▼▲▲、ハハ、等。明治法律學校中退。假名垣魯文の門に入り、新聞各社を轉々。傍ら小説、評論、隨筆と多彩の活動も、肺病で死去。

著書『おくれんぼ』(昭和二十四年七月五日春陽堂)、『油地獄』(明治二十四年十一月七日春陽堂)、『及木家』(小杉天外合著、明治二十六年二月七日春陽堂)、『見切物』(明治二十七年八月五日春陽堂)、『第一の國民小説』(合著、明治二十九年二月二十日民友社)、『あまの蛙』(明治三十年五月十九日博文館「袖珍小説」)、『あられ



酒』(明治三十一年十一月二十七日博文館)、『美奴白砂青松』(合著・高松孝村編、明治三十二年七月百人學館「名家文庫」)、『花月集』(合著・

浮浪庵漁仙編、明治三十二年十一月十日南洋書店。再刊、二十七年五

月一日求光閣書店）、『わかれ其』(明治二十二年八月四日博文館)、

『みだれ箱』(明治二十八年五月十二日博文館)、『睡玉集』(合著

・後藤 苗外、伊原青々園編、明治二十九年九月十九日春陽堂)、『縁雨遺稿』(明

治四十年十月二十三日木下出版商社)、『縁雨集』(明治四十二年一

月十八日春陽堂)、『又壇名家書簡集』(合著、大正七年七月十八日

新潮社)、『油地獄』(大正九年十一月二十八日、改訂十版、十四年

五月十五日春陽堂「名家傑作集」)、

『縮縁雨全集』(大正十一年四月十

五日博文館)、『名家文牘釋文・第

参輯』(大正十五年五月二十日渡邊

得次郎錦刊)、廣津柳浪集
川上春山集『昭

和四年二月二日改造社「現代日本文

學全集」)、齋藤縁雨・若松賤子
後藤苗外・巖谷小波

『昭和五年十一月十五日春陽堂「明治大正文學全集」』、『わかれん

池』篇』(昭和十四年五月十七日岩波書店「岩波文庫」)、『あう

れ酒』(昭和十四年八月二日岩波書店「岩波文庫」)、『みだれ箱』

』(昭和十四年七月二十日改造社「改造文庫」)、『油地獄池』篇』(昭

和十四年十月二十五日岩波書店「岩波文庫」)、『明治大正新詩選・

上』(合著・日夏耿之介選、昭和二十五年六月十五日創元社「創元選

書」)、『日本近代抒情詩集』(合著・日夏耿之介編、昭和二十七年

八月二十五日河出書房「世界抒情詩選」)、

巖谷小波 井
齋藤縁雨 山田美紗
江見水鏡 宮崎湖處子

『岡上親集』(昭和二十七年十一月十日河出書房「現代日本小説大系・

補巻」)、『現代文學論大系・第一巻』(合著、昭和二十九年二月五



- 日河出書房）、『現代日本小説大系・5』寫實主義・5』（合著、昭和二十一年八月二十五日日河出書房）、『齋藤綠雨木下尚江集』（昭和二十二年十月八日筑摩書房『現代日本文學全集』）、『名作集・一』（明治篇）』（合著、昭和二十七年十一月）『日新新社』『日本文學全集』、『齋藤綠雨集』（稻垣運郎編、昭和四十一年一月十日筑摩書房『明治文學全集』）、『齋藤綠雨石橋忍月集』（昭和四十二年十一月十九日講談社『日本現代文學全集』）、『おくれんぼ』（昭和四十二年十一月十日近代文學館『名著複刻全集』）、『齋藤綠雨・岩野泡鳴』、『可小劍・深沢七郎』（昭和四十四年六月五日筑摩書房『日本短篇文學全集』）、『明治短篇集』（合著、昭和四十五年五月十日角川書店『日本近代文學大系』）、『名作集・一』（合著、昭和四十五年七月五日中央公論社『日本の文學』）、再刊・四十九年九月二十日『サインボリーボックス』）、『名作集・一』明治篇』（合著、昭和五十年四月八日集英社『日本文學全集・豪華版』）、『明治文人遺珠』（岸田吟香日記）『全』二冊（昭和五十七年四月）『日河湖北社』『近代日本文學資料叢書』）等。
- 文獻、嶋田青峰著『子規・紅葉・綠雨』（名義、昭和十年九月）『百言海書房。柴田春曲執筆』、橋爪成成著『齋藤綠雨伝』（昭和二十九年十一月十日編岡・九州文學社）、衣斐弘之著『評伝齋藤綠雨』（昭和五十七年一月）『火涼会、鈴鹿文化センター発刊『火涼叢書』』等。